平成２２年９月の解説（週間天気予報）

【９月の天候状況】

上旬は、北日本では高気圧に覆われ晴れる日が多くなりました。東、西日本も高気圧に覆われ晴れて猛暑日となるなど厳しい残暑が続きましたが、旬の後半は台風第９号の影響で大雨となった所がありました。沖縄・奄美は台風第９号や熱帯低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなりました。中旬は、北海道地方では高気圧に覆われ晴れる所が多くなりましたが、東北、北陸地方では前線の影響により曇りや雨の日が多く大雨となった所がありました。東日本の太平洋側と西日本は、高気圧に覆われ引き続き晴れて厳しい残暑となりました。沖縄・奄美は高気圧に覆われ概ね晴れましたが、旬の終わりは台風第 11 号の影響で大荒れの天気となった所がありました。下旬は、北日本から西日本にかけて前線や台風第 12 号の影響により曇りや雨の日が多くなりましたが、東、西日本の太平洋側では初め高気圧に覆われて晴れました。沖縄・奄美は高気圧に覆われ晴れる日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、北、東日本の日本海側を除き平年より多く、特に東、西日本の太平洋側ではかなり多くなり、９月の月間日照時間の最大値を更新した気象官署がありました。降水量は関東甲信地方では平年より多くなり、東北、北陸地方は平年よりかなり多くなりました。一方、北海道と西日本では平年より少なく、西日本の太平洋側ではかなり少なくなった所がありました。気温は全国的に平年よりかなり高くなり、９月の月平均気温の最高値を更新した気象官署がありました。

【９月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は全国平均では例年(注)より 3 ポイント高い 68%でした。地方毎の適中率も例年より高いところが多く、北海道、東海、近畿、四国地方は 6 から 11 ポイント高くなりました。しかし北陸地方は例年より 5 ポイント低くなりました。最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、東北地方では例年より 0.6℃大きくなりましたが、その他の地方では概ね例年並となり、全国平均は 0.1℃大きい 2.5℃でした。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、ほぼ全国的に例年より 0.1℃から 0.4℃小さくなり、全国平均は 0.2℃小さい 1.8℃でした。

(注) 例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【１１月の週間天気予報の利用にあたって】

11月になると西高東低の冬型の気圧配置が天気図に見られるようになり、日本海側は次第に曇りや雨または雪の日が多くなってきます。逆に太平洋側は晴れる日が多くなります。例えば新潟の月間日照時間は11月から3月まで東京よりも少なくなります。初雪も上旬は東北地方北部、下旬には北陸地方で観測されるようになります。このとき峠道が積雪状態になると、雪道の備えがない自動車はスリップしやすく交通事故につながります。週間予報でも11月から「北部」と「南部」のように冬型の地域細分で予報を発表する府県があります(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kurashi/shukan_saibun.html)。週間予報を参考にしてスタッドレスタイヤに換えるなど、早めに冬への準備を始めるようお勧めします。